

深耕15cmで根域の拡大を！！

近年は、作土が浅くなったり、有機物や土づくり資材の施用が減少しています。これらの要因が重なって、水稻の根群形成が浅く、貧弱となり、大きな気象変動にも耐えられず、稲体の活力を維持できなくなっていると考えられます。

トラクターの速度を落とし、ロータリーの回転数を遅くし、現状よりプラス3cmの作土深15cmを確保しましょう。作土を増加させることで、根張りや根の活力が向上し、倒伏や枯れ上がり防止につながります。

おいしい、登熟の良い米づくりを目指すためには、収穫直前まで稲体の活力を維持する必要がありますので、深耕によって根を十分に張らせ、健全に保つことが大切です。

□作土の違いによる根域の違い □



箱施薬が変わりました！

本年度、箱施薬がルーチンアドスピノからスタウトダントツに変わりました。慣行栽培では今年もルーチンアドスピノを使用出来ますが、特別栽培(団体申請)では使用できませんのでご注意ください。

慣行栽培(エコファーマー) → ルーチンアドスピノ スタウトダントツ

特別栽培(団体申請) → ルーチンアドスピノ スタウトダントツ



苗半作 適期播種で健苗育成を

□ 育苗作業の事前計画をしっかり立てましょう □

■ 育苗作業にあせりは禁物 ～早すぎる播種は危険がいっぱい～

- ①水温が低すぎると籾の活性が低く、芽の伸びも悪くなる
- ②播種後の低温による育苗障害
- ③出穂が早まり、高温下での登熟により品質が低下

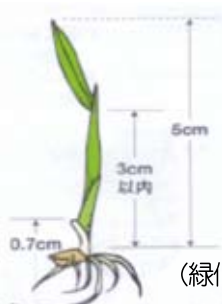


■ 育苗作業について ～育苗時の温度目安～



生育時期	苗 丈		温度管理		処理日
			昼間	夜間	
出芽期	出芽長	0.5~1 cm	28~30℃	28~30℃	2~3 日
緑化期	第一葉鞘長	3.5~4 cm	20~30℃	10~15℃	2~4 日
硬化期	苗 丈	12 cm	15~20℃	10℃以上	13~15 日

(出芽終了時)



(緑化終了時)



(硬化終了時)

コシヒカリの播種・育苗管理ポイント

- 浸種直後(8~24時間)の水温は極端に低くならないよう、10℃~15℃の適温に保つようにしましょう。浸種期間は積算水温で100℃を確保してください。浸種期間が短く不足すると出芽が不揃いになります。
- 出芽揃い(出芽長0.5~1 cm)を確認してから搬出しましょう。
- ハウス搬出直後は覆土が落ち着く程度のかん水を必ず行い、こまめにハウス内の温度を確認してください。(保温性の高い被覆資材の使用は避けましょう)
- 水管理においては必要以上の水は与えないようにする。原則として、夕方に水を与えないで朝から昼に1~2回水を与えるような管理を行きましょう。
- 遅くとも朝8時頃にはハウスを開放するようにしてください。日最低温度が10℃を下回らないのであれば、夜間も積極的に換気を行きましょう。

代掻きと、はやる気持ちを我慢して、5月中下旬の田植えにあわせよう。